



### 在宅輸血を通しての 病診連携

先日、東京フォーラム

での血液学会に知己の病院の先生が発表を行うとのこと、当院とも関わりのある在宅輸血がテーマだったこともあり、楽



**松原 清二** 医師  
在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長  
総合内科専門医・循環器内科医  
・日本循環器学会専門医  
・日本内科学会認定医  
・認知症専門医  
・認知症サポート医

しみに聴きに行きまし入の方に多い要介護の割合が少なかつたのです。具体的内容は、病診連携における在宅輸血の実態でした。例えば、在宅輸血に至った患者像、患者側から見た在宅輸血の満足、不満足な点などです。

意外だったのは患者像で、自分自身で判断し自分で身の回りのことをできるという方が、8割もあり、在宅医療導度度が4割程度だったこととです。理由としては、在宅では輸血の専門医が関わっていないことや、輸血中はずっとスタッフがついてくれない、といった不安が拳がっていました。ただ、驚いたのは、満足が4割程度だったこととです。理由としては、在宅では輸血の専門医が関わっていないことや、輸血中はずっとスタッフがついてくれない、といった不安が拳がっていました。このように在宅での輸血には手間がかかるので、一方で、患者さんの全身の倦怠感や息切れなどの症状の改善には有効なことが多いですし、緩和医療の一環としては医療者も患者さんもやっ

が、ついでに、輸血に関する不安は、輸血の掛け合わせでの使用の

[まつばらホームクリニック]  
☎042-439-1250  
西東京市東町 4-14-18-2F  
(訪問中のため不在が多い)  
■電話対応:午前9:00~午後6:00  
■定休日:土日(祝日は診療)  
■訪問地域:西東京市、東久留米、新座・練馬の一部  
まつばらホームクリニック 検索

し、家族は当初は在宅輸血に